

第39回環境保全・公害防止研究発表会の概要

熊本県保健環境科学研究所

平成24年11月21日(水)および22日(木)に環境省、全国環境研協議会および熊本県の共催による第39回環境保全・公害防止研究発表会が熊本市の熊本市国際交流会館で開催されました。

研究発表に関しては全国環境研協議会の会員から44題の演題応募があり、水質(8題)、生物(6題)、大気(12題)、化学物質(7題)および地下水・土壌(4題)、廃棄物(3題)、リサイクル(4題)のセッションが2会場に分かれて研究発表が行われました。

1日目は主催者のあいさつ、続いて特別講演および研究発表が行われ、2日目は引き続き研究発表が行われました。2日間で会員および行政機関等から延べ214名の参加があり、成功裏に終了しました。

1. 開会あいさつ

熊本県保健環境科学研究所長の松本でございます。本日は、第39回環境保全・公害防止研究発表



(熊本県保健環境科学研究所長 松本 博氏)

会に、全国各地からここ熊本にお集まりいただきまして事務局として心から感謝申し上げます。

今年も沢山の演題の申込みがありました。また、この2日間で延べ約200名の方に参加いただくことになっております。開催県として、これまでできるだけの準備をさせていただきましたが、



A会場風景



B会場風景

第39回環境保全・公害防止研究発表会日程表

熊本市国際交流会館(6階大ホール)	
平成24年 11月21日(水)	○開会(13:30~13:45) 開会あいさつ 熊本県保健環境科学研究所長 松本 博 主催者あいさつ 環境省環境研究技術室長 長坂 雄一 全国環境研協議会会長 坂本 和彦 熊本県環境生活部長 谷崎 淳一
	○特別講演(13:50~15:00) 演題：熊本地域における広域地下水流動の実態とその持続的管理を目指した取り組み 講師：嶋田 純(熊本大学大学院自然科学研究科 教授) 座長：坂本 和彦(全国環境研協議会会長(埼玉県環境科学国際センター総長))
	○研究発表 (15:15~17:15)
	A会場(6階大ホール) B会場(4階第3会議室)
○生物 (15:15~17:15) ○大気Ⅰ (15:15~17:15)	
平成24年 11月22日(木)	○研究発表 (9:10~16:00)
	A会場(6階大ホール) B会場(4階第3会議室)
	○水質Ⅰ (9:10~10:30) ○大気Ⅱ (9:10~11:10) ○水質Ⅱ (10:40~12:00) ○廃棄物 (11:20~12:20) (昼食・休憩) (昼食・休憩)
	○化学物質Ⅰ (13:10~14:30) ○リサイクル (13:30~14:50) ○地下水・土壌 (14:40~16:00) ○化学物質Ⅱ (15:00~16:00)
	○閉会 A会場(16:05~16:15) 閉会あいさつ 環境省環境研究技術室長 長坂 雄一 次期開催県あいさつ 愛媛県立衛生環境研究所副所長 大川 和彦 開催県閉会あいさつ 熊本県保健環境科学研究所長 松本 博

何かと不行き届きの点がございましたら、お許しをいただきたいと思えます。

それから、本日の研究発表会が終わりましたら、会場は別になりますけれども、恒例の情報交換会を予定しております。研究発表は限られた時間の中で行われますので、十分内容を咀嚼できなかった場合は、情報交換会で存分に消化していただければと思えます。

この2日間、熱心な御討論と研究の交流、そして研究発表のスムーズな進行にも御協力をお願いします。

それではただいまから第39回環境保全・公害防止研究発表会を開会します。

2. 主催者あいさつ

○環境省のあいさつ

ご紹介にあずかりました環境省総合環境政策局環境研究技術室長の長坂でございます。

第39回環境保全・公害防止研究発表会の開会に

当たり、一言御挨拶申し上げます。

本日は御多忙の中、本研究発表会に全国各地から大勢の皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本研究発表会は、地方公共団体の環境研究所の職員の皆様による研究成果を発表する場を設けるとともに、国と地方公共団体、あるいは地方公共団体どうしの連携を図ることを目的にいたしまして、昭和49年から毎年開催され、今回で39回目を迎えることとなりました。

これもひとえに、本日お集まりの関係機関の関係者の御尽力の賜物と考えており、重ねてお礼申し上げます。

本日は、まず、この後の特別講演において、水循環の実態を踏まえた新たな地下水資源管理という課題に取り組んでおられます熊本大学の嶋田先生より、熊本地域での取組みを御紹介いただくということを予定しております。

続きまして研究発表会におきましては、地域で



(環境省総合環境政策局環境研究技術室長 長坂 雄一氏)

のモニタリングの解析結果などからの知見など地域の環境課題の解決に向けた研究につきまして、各研究機関から御発表いただくわけですが、今年におきましては、とくに、PM_{2.5}についての研究発表が多いと聞いています。私の方も、どのような研究が発表されるのか非常に楽しみにしています。

話は変わりますが、環境省の競争的研究資金であります環境研究総合推進費というのがございまして、行政ニーズに沿ったテーマを設定し、環境研究・技術開発を着実に進めていくというものでございます。

環境省としての地方環境研究機関に対する支援というものが、なかなか手だてがないなか、これらは研究費という形で支援できる一つのツールとなっております。地環研の方が参画されている研究課題の方は比較的少数なのでございますが、これらの活用ということも積極的に取り組んでいただければと思います。パンフレットが入口に用意してあると思いますので、御参考にしていただければと思います。ちなみに来年度の公募は実は先週終わってしましまして、毎年タイミング的には公募の終わった次期辺りにこの研究発表会が開催されるのですが、次年度を見据えて用意していただければと考えているところでございます。

地域における環境行政を支える科学的・技術的な中核組織である地方環境研究所の役割というのは色々変遷しておりますが、いまだ大切な位置を占めていると考えております。今後とも、全国環境研協議会および会員機関の皆様と連携を図りながら、環境研究・技術開発の一層の推進に取り

組んでまいり所存でございますので、さらなる御尽力・御協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本研究発表会は、日頃交流する機会の少ない地方公共団体の環境研究所の方々が一同に会する機会でございます。先ほど松本所長様からも御案内がございました情報交換会が後であるということでございますが、そういった場所を利用いたしまして、意見交換・情報交換の場としても大いに活用していただきますようお願いしたいと考えております。今回の研究発表会開催にあたり御尽力を賜りました熊本県と全国環境研協議会の関係者の皆様にも厚くお礼を申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

○全国環境研協議会のあいさつ



(会長 坂本 和彦氏(埼玉県環境科学国際センター総長))

本年度全国環境研協議会の会長を務めさせていただいております埼玉県環境科学国際センターの坂本でございます。

第39回環境保全・公害防止研究発表会の開催にあたりまして御挨拶申し上げます。

本研究発表会には、環境省、全国環境研協議会並びに今回色々ご準備をいただきました熊本県保健環境科学研究所、熊本県環境生活部の皆様のご尽力に深く感謝を申し上げる次第でございます。

本研究発表会ではそれぞれの地域が抱える環境問題、またとくに西日本では大陸からの影響を受ける汚染が問題となっておりますが、黄砂に関する研究など、非常に幅広い研究成果が今回発表

されることになってございます。同一分野の多くの研究者が一堂に会して研究成果について討論することはあまり多い機会がある訳ではございません。関連分野の多くの研究者の皆様方の討論により、課題が明確になり、そういった課題に対する解がそこから導き出されるといったこともあろうかと思えます。私達はそれぞれの課題について科学的手法を用いて調査研究を行っておりますが、この発表会での討論を通じて、さらに補うべき調査などあれば追加し、その研究成果をまとめてぜひ全環研の会誌に投稿いただきますようお願いいたします。諸般の事情で今回の研究発表会には参加できなかった皆様にも同様の課題を抱えていらっしゃる可能性が多くあると思えますが、会誌に発表されることによって実験事実裏打ちされた確かな結果について多くの皆さんが利用できるようになります。現在、印刷により発行されてございますが、今後電子ジャーナル化など考えていけば、現在の費用でもっと多くの論文の掲載が可能になるのではないかと思います。得られた研究成果をより多くの関係者が利用できるようにしていくことも全環研の使命ではないかと思います。また、さまざまな環境問題が広域化しつつありますので今回の研究発表会を通じて、より共通性の高い広域的な課題は各自自治体の枠を超えて共同研究などが推進できるようになればよいと思っております。

それから、一つ話題が変わりますが、19日の中央環境審議会総会でこれまで放射能汚染への適用を対象外とする規定が、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、海洋汚染防止法、環境影響評価法にはございましたけど、その除外規定を削除するという形の意見具申を環境大臣に出すことになった訳でございます。そう言う意味で、今後、来年の通常国会で法改正がなされ、こういったことも私達が行き届かなければいけないものに入ってくる可能性がございます。こういった状況下で環境省と地方環境研究所が連携して、基本的なところから検討していく可能性があると思えます。

多くの課題を抱えている状況ではございますが、当面の環境問題の解決に向けて、本研究発表会が有効に機能することを期待しまして、私の挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとう

ございました。

○熊本県のあいさつ



(熊本県環境生活部長 谷崎 淳一 氏)

御紹介にあずかりました熊本県環境生活部長の谷崎でございます。

第39回環境保全・公害防止研究発表会を熊本県で開催するにあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。

本日は、環境省の長坂環境研究技術室長様をはじめ、全国各地から環境分野の研究者の皆様方に、ここ熊本までお越しいただき、開催県といたしまして心から歓迎申し上げます。次第でございます。

近年の環境問題を見てみますと、従来の国内発生源による水質・大気などの典型7公害問題にとどまらず、地球温暖化の進行に伴い、問題が地球規模で起こるなど多様化、複雑化してきており、また、大陸からの影響も懸念されております。

本研究発表会では、このような課題に対する取組みとして、2日間で44題の研究発表が行われると伺っております。平成21年9月に環境基準が設定された微小粒子状物質に関する最新の研究成果、廃棄物の適正処理・有効利用に関する成果、あるいは河川・湖沼・海域・地下水の汚染調査および生物相の視点からの調査解析など、いずれの発表演題も昨今の環境問題に深く関わった大事なテーマでございます。

今回の発表会が、研究者の方々の意見交換を活発にし、研究内容をさらに深めていく格好の場となり、これら研究の成果が今後の環境行政の施策

に活かされ、環境の保全・創造に向けた取組みの原動力となっていくことを、期待をいたしております。

さて、本県は古来より阿蘇を象徴として「火の国くまもと」といわれておりますが、県下全域の水道水源の約8割を地下水でまかなう豊富な水資源が県民生活に深く関わっている「水の国くまもと」でもございます。

このくまもとの宝であります地下水を保全するため、本年4月「熊本県地下水保全条例」を改正いたしました。改正条例では、地下水は県民共有の財産で「公共水」と位置づけまして、地下水採取の許可制や涵養の義務づけなどを盛り込み、全国でも例のない条例になったと考えております。

そのため、本日はこの後、先程も御紹介がありましたけれども、熊本大学大学院教授の嶋田純先生に、特別講演として『熊本地域における広域地下水流動の実態とその持続的管理を目指した取組』と題しまして、御講演をいただくことといたしております。先生には御多忙のなか、お引き受けいただきまして深く感謝を申し上げます。ありがとうございます。

ところで、本県には、この会場の目と鼻の先に日本三名城の一つである熊本城、すぐ側には、細川コレクションの永青文庫展示室がございます県立美術館、少し足を延ばしていただきますと阿蘇や天草と言った観光地や、昨年ラムサール条約で登録されました荒尾干潟などの環境保全地域がございます。

また、ご案内のとおり、ご当地でございますけれどもラーメンや大平燕、馬刺しに辛子レンコン、それから意見交換会でも恐らく飲まれるであろう焼酎、こういったものがあります。豊富な地下水を始めとします素晴らしい環境がもたらしてくれる本当においしい熊本ならではの食べ物がございます。是非この機会に熊本の観光と食をご堪能いただければ幸いです。

最後になりましたが、全国環境研協議会の益々の御発展と、本日お集まりの皆様方の御健勝と御活躍をお祈りしまして、担当県としての御挨拶とさせていただきます。本日はようこそおいでいただきました。

3. 特別講演

熊本大学大学院自然科学研究科教授の嶋田純氏により「熊本地域における広域地下水流動の実態とその持続的管理を目指した取組み」について、特別講演が行われました。概要は特集として後に掲載しております。

4. 研究発表

2日間にわたり、A会場・B会場の2会場で44の演題について、以下のとおり研究発表が行われました。以下にその概要を示します。

(1) 第1日目

(熊本市国際交流会館 A会場)

○生物 [15:15~17:15]

座長：新家 淳治(三重県保健環境研究所)

- 1A1-1 湖沼水質形成における沿岸帯の機能とその影響因子の評価
一瀬 諭ほか(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
- 1A1-2 琵琶湖沿岸帯の底泥を用いた藻類の回帰実験結果について
古田 世子ほか(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
- 1A1-3 底質中の植物プランクトンの再活性化に及ぼす光照度の影響
田中 仁志ほか(埼玉県環境科学国際センター)
- 1A1-4 琵琶湖における漁網(刺網)への藻類の付着について
藤原 直樹ほか(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
- 1A1-5 樫野川河口干潟における産学公民による干潟再生活動について
惠本 佑ほか(山口県環境保健センター)
- 1A1-6 北九州市洞海湾における水質改善と付着動物出現状況の変化
村田 達海ほか(北九州市環境科学研究所)

(熊本市国際交流会館 B会場)

○大気 I [15:15~17:15]

座長：福田 照美(熊本市環境総合センター)

- 1B1-1 茨城県における PM_{2.5}成分分析結果と発生源解析
鴨志田 元喜ほか(茨城県霞ヶ浦環境科学センター)
- 1B1-2 群馬県における大気中 PM_{2.5}成分の挙動—2012年1月および3月の調査結果から—
一条 美和子ほか(群馬県衛生環境研究所)
- 1B1-3 三重県北部地域における PM_{2.5}環境濃度測定簡易法と標準法との比較
西山 亨ほか(三重県保健環境研究所)
- 1B1-4 川崎市における微小粒子状物質(PM_{2.5})の成分組成(2011年度)
後藤 健二ほか(川崎市公害研究所)
- 1B1-5 PM_{2.5}常時監視と並行実施した PM_{2.5}およびSPMの成分分析
林 隆義ほか(岡山県環境保健センター)
- 1B1-6 長野県における微小粒子状物質成分組成の地域差および季節変動
中込 和徳ほか(長野県環境保全研究所)

(2) 第2日目

(熊本市国際交流会館 A会場)

○水質 I [9:10~10:30]

座長：一瀬 諭(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

- 2A1-1 最上川における BOD 上昇の要因調査について
西塚 一茂ほか(山形県環境科学研究センター)
- 2A1-2 GIS版新潟県環境情報マッププロトタイプ
植田 信夫ほか(新潟県保健環境科学研究センター)
- 2A1-3 河川水の TOC 計測における懸濁物質の影響
高橋 基之ほか(埼玉県環境科学国際

センター)

- 2A1-4 有用植物を用いた湖沼水質改善に関する研究—三方湖周辺における流入汚濁負荷の低減—
南部 浩孝ほか(福井県衛生環境研究センター)

○水質 II [10:40~12:00]

座長：田中 仁志(埼玉県環境科学国際センター)

- 2A2-1 琵琶湖底質調査について
卯田 隆ほか(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
- 2A2-2 播磨灘、加古川流域における窒素、リンの生分解特性
前川 真徳ほか(財ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター)
- 2A2-3 道頓堀川に関する大阪市内河川の大腸菌群の挙動
北野 雅昭ほか(大阪市立環境科学研究センター)
- 2A2-4 千厩川で発生したミズワタの同定と水質調査について
八重樫 香ほか(岩手県環境保健研究センター)

○化学物質 I [13:10~14:30]

座長：半野 勝正(千葉県環境研究センター)

- 2A3-1 環境省環境研究総合推進費「有機フッ素化合物の環境負荷メカニズムの解明とその排出抑制に関する技術開発」の成果報告
西野 貴裕ほか(公益財団法人東京都環境公社東京都環境科学研究センター)
- 2A3-2 福井県における有機フッ素化合物の汚染実態と排出源について
川下 博之ほか(福井県衛生環境研究センター)
- 2A3-3 奈良県内河川水および地下水の有機フッ素化合物濃度実態調査
荒堀 靖史ほか(奈良県保健環境研究センター)
- 2A3-4 水中の農薬類の迅速分析の試み
木村 淳子ほか(広島県立総合技術研究所保健環境センター)

○地下水・土壌 [14:40~16:00]

座長：高橋 基之(埼玉県環境科学国際センター)

- 2A4-1 ファイトレメディエーションによる鉛およびヒ素の吸収効率について
井上 和幸ほか(石川県保健環境センター)
- 2A4-2 環境修復地での細菌叢を利用した安定化評価方法の検討
巽 正志ほか(三重県保健環境研究所)
- 2A4-3 土壌中重金属の自然または人為由来の判別に関する研究(2)
新家 淳治ほか(三重県保健環境研究所)
- 2A4-4 佐賀県内における地下水汚染調査について
犬塚 加代子ほか(佐賀県環境センター)

(熊本市国際交流会館 B会場)

○大気Ⅱ [9:10~11:10]

座長：西山 亨(三重県保健環境研究所)

- 2B1-1 立山山麓における光化学オキシダント濃度の季節変化
近藤 隆之ほか(富山県環境科学センター)
- 2B1-2 千葉県における環境放射能調査
井上 智博ほか(千葉県環境研究センター)
- 2B1-3 固定発生源周辺における炭化水素の連続測定について
内藤 李和ほか(千葉県環境研究センター)
- 2B1-4 イオンクロマトグラフィーを用いた大気中二酸化窒素の簡易測定法とそのフィールド調査結果
板倉 直哉ほか(さいたま市健康科学研究センター)
- 2B1-5 九州・山口地方有害大気汚染物質共同調査結果について
村岡 俊彦ほか(熊本県保健環境科学研究所)
- 2B1-6 熊本市における近年の黄砂発生の事例解

析—平成20~22年度までの硫酸塩調査に基づいて—

福田 照美ほか(熊本市環境総合センター)

○廃棄物 [11:20~12:20]

座長：成岡 朋弘(鳥取県生活環境部衛生環境研究所)

- 2B2-1 サーベイメータを活用した焼却飛灰中放射性Cs濃度の推計について
齊藤 由倫ほか(群馬県衛生環境研究所)
- 2B2-2 一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究
川寄 幹生ほか(埼玉県環境科学国際センター)
- 2B2-3 最終処分場・不法投棄現場における比抵抗探査
磯部 友護ほか(埼玉県環境科学国際センター)

○リサイクル [13:30~14:50]

座長：川寄 幹生(埼玉県環境科学国際センター)

- 2B3-1 もみ殻を原料としたリン回収材の開発と長崎県諫早湾での適用
成田 修司ほか(秋田県健康環境センター)
- 2B3-2 USB顕微鏡を用いた建材中アスベストの判定方法
渡辺 洋一ほか(埼玉県環境科学国際センター)
- 2B3-3 カートリッジ式ボルタンメトリー法による再生材の品質管理のためのAsの簡易分析
門木 秀幸ほか(鳥取県衛生環境研究所)
- 2B3-4 一般廃棄物焼却残渣のリサイクルに関する研究
成岡 朋弘ほか(鳥取県衛生環境研究所)

○化学物質Ⅱ [15:00~16:00]

座長：西野 貴裕(公益財団法人東京都環境公社東京都環境科学研究所)

- 2B4-1 シロアリ駆除剤(クロルピリフォス)およ

び前駆物質の焼却処理による熱分解生成物のメダカへの生物毒性影響に関する研究

半野 勝正ほか(千葉県環境研究センター)

2B4-2 山口県における大気環境中のダイオキシン類濃度と異性体構成の特徴

上杉 浩一ほか(山口県環境保健センター)

2B4-3 広島市域の土壤中ダイオキシン類調査結果

村野 勢津子ほか(広島市衛生研究所)

5. 閉 会

閉会にあたり、環境省および熊本県から閉会のあいさつが、また次期開催県としてのあいさつが愛媛県からありました。

○環境省の閉会のあいさつ

皆さんどうもお疲れ様でございました。

第39回環境保全・公害防止研究発表会の閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

2日間に渡る研究発表会におきまして、地方公共団体の環境研究所の皆様から、各分野における調査・研究の成果が発表され、実りある議論が行われたことと思います。これもひとえに、各発表者の御努力と座長の労の賜物かと存じます。

改めまして、地方公共団体の環境研究所におきまして、研究の最前線におかれて活躍されている皆様の日頃の御努力に対しまして、心から敬意を表しますとともに、本発表会の開催準備に御尽力いただきました熊本県および全国環境研協議会の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

地方公共団体の環境研究所の研究者が一同に会する貴重な機会であるこの研究発表会でございますが、今後、一層充実させていきたいということも考えております。次期開催県でございます愛媛県および全国環境研協議会の関係者の皆様におかれましては引き続き御協力をいただきたいと思っております。改めましてよろしく御願申し上げます。

簡単ではございますが、これもちまして閉会の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○次期開催県のあいさつ



(愛媛県立衛生環境研究所副所長 大川 和彦氏)

皆さんこんにちは、そしてご苦勞様でございました。愛媛県立衛生環境研究所の副所長の大川でございます。今もお伝えしましたとおり、所長の方が所用で来れませんものですから私の方から代理で次期開催県のあいさつをさせていただきます。

環境省の皆様、そして全国環境研協議会の皆様におかれましては、毎年このような研究発表会を継続して開催していただいておりますことをたいへんありがたくそして心からお礼を申し上げるところでございます。また、今年の事務局といたしまして、2日間にわたり、このようにすばらしい研究発表会、そして昨夜の情報交換会と、りっぱに企画・開催されました熊本県保健環境科学研究所の皆様におかれましては、本当にありがとうございました。皆様のご苦勞・ご配慮に、厚く感謝を申し上げます。

また、連日発表をいただきました研究者の皆様、すばらしい研究成果をご披露いただき、本当にありがとうございました。所に持ち帰りましてこれからの研究調査の参考にさせていただきたいと思っております。

さて、来年のこの環境保全・公害防止研究発表会、第40回の記念すべき発表会となりますけど、愛媛県立衛生環境研究所が担当することとなりました。

昭和20年代後半から、近代化と高度成長の流れ

の中で、全国各地で公害が大きな社会問題となる中で、愛媛県におきましても、県の東部地域を中心に硫黄酸化物等の大気汚染や海域のヘドロ問題など、多くの公害や環境問題に対応してまいりました。本県では、昭和47年4月に衛生研究所公害部が公害研究所として独立して、今年でちょうど40年となり、来年の発表会の回数と同じ年数を重ねたこととなります。

昭和が平成に移り、そして21世紀に入った今、公害という言葉さえ過去のものになりつつあり、環境の時代という世の中になりましたが、これまで諸先輩方が公害防止と環境保全のために築き上げられてきました熱意と努力、そしてこの場にご参集されております研究者の皆様方の頑張りが、次の世代に今の豊かで美しい環境・自然をつなげていく礎になるものと考えており、来年も、今回のようなすばらしい研究発表会が開催できますことを研究所あげて努力してまいりたいと考えておるところでございます。

来年の開催場所は、愛媛県松山市を予定しております。

松山市は3000年の歴史を誇る日本三名湯の一つの道後温泉を始めといたしまして、日本残存12天守の1つである松山城がそびえ、坊ちゃん列車が市内を走り、四国八十八箇所のお遍路さんが行きかうという、癒しと心豊かな国でありますし、また愛媛みかんもちょうど今甘みを増してくる頃になっております。

来年は、どうか、『いで湯と城と文学のまち』松山に、多くの研究者そして関係者の皆様がお集まりいただきまして、次期開催を盛り上げていただきますようお願いを申し上げます、次期開

催のあいさつといたします。

皆様のご来県を心からお待ちいたしております。

○開催県閉会のあいさつ

皆様、この2日間にわたりたいへんお疲れ様でございました。お陰様でこの研究発表会も盛会の内に終えることができたのではないかと考えております。環境省の長坂室長様、全環研協の坂本会長様、そして特別講演の嶋田先生、それから発表された方々、そして座長を務められた方々、さらに一生懸命討論してもらいました多くの参加者の皆様にあらためてお礼を申し上げたいと思います。

私も2日間聴講させていただきましたが、この調査研究に対する皆様方の努力と熱意には頭が下がる思いでございました。今回の研究発表会で得られた成果をぜひお持ち帰りいただき、そして今後の各研究所での調査研究の発展に活かしていただければと考えております。

熊本には、ご承知のように、阿蘇や天草以外に、この熊本市内にも沢山の観光スポットがございます。明日から三連休でございますのでお時間のあられる方は是非この機会にご覧いただければ幸いです。

また、先ほど、大川副所長様から御挨拶がありましたとおり、来年は愛媛県での開催です。

来年もぜひ沢山の方が参加をされまして、この研究発表会がさらに発展しますことを心から祈念するものでございます。それでは、これをもちまして第39回環境保全・公害防止研究発表会を閉会します。お疲れ様でございました。